

第 32 回（令和八年度）定点調査

「水にかかわる生活意識調査」結果レポート

社会インフラとしての水への認識と、日常の関心・行動に変化

四国を対象とした特別調査から地域特性も明らかに

＝調査期間：2026年6月11日(木)～16日(火)＝

特定非営利活動法人日本水フォーラムでは、今年6月に、東京圏（埼玉・千葉・東京・神奈川）、中京圏（岐阜・愛知・三重）、大阪圏（京都・大阪・兵庫）〈以下、東名阪〉の在住者1,500名を対象とした「水にかかわる生活意識調査」を実施し、集計結果をまとめました。

本調査は、日常生活と水のかかわりや意識を明らかにすることを目的とした定点調査として、ミヅカン水の文化センターが1995年より実施。2025年の同センター活動終了に伴い、今年から当会が継承するものです。

今年は、従来の調査設問を中心に、社会インフラとしての水への認識を探る新たな設問を追加しました。経年比較では、複数の設問で各項目の数値が減少する一方、「特にない」「知っていることはない」などの回答が増加し、水への日常的な関心や行動に変化がうかがえる結果となりました。さらに、都市部と地方の意識を比較するため、四国（徳島・香川・愛媛・高知）を対象に、東名阪調査と同様の内容による特別調査を実施しました。また、東京大学 大学院工学系研究科 沖大幹博士に、今年も調査結果の解説をいただきました。

なお、今年の調査データの詳細は当会HP (<https://www.waterforum.jp/>)、過去（第1回～31回）の情報は、アーカイブとして公開されているミヅカン水の文化センターHP (<https://www.mizu.gr.jp/>) でご覧いただけます。

《調査結果》

トピック【1】水道は生活を支える重要な社会インフラ

- …「安定的な維持が重要だと思うインフラ」では、「水道」が65.2%、「電力」が64.1%と、ともに6割を超えて上位に。
- …「日本で深刻だと認識している水問題」では、水道管の老朽化が40.1%でトップ。値上げを最も受け入れやすいインフラ料金も、「水道料金」が49.3%で1位となった。

トピック【2】水への関心や行動に変化の兆し

- …気候変動を「意識している人」は2011年の65.5%から50.5%へ、「世界で水道水をそのまま飲む国はごくわずか」と知る人も、2018年の67.1%から51.7%へ減少。
- …節水を「意識している人」は昨年の76.4%から70.9%へ、「行っている人」も77.4%から70.4%へ減少。「実践していることはない」は14.0%から20.1%に増加した。

トピック【3】四国調査から見た水への意識の特徴

- …四国の水道水評価は平均7.26点と、東名阪の7.15点を上回った。一方、「給水制限や断水」への不安は32.5%で、東名阪の27.2%より高い結果に。
- …不安な災害として「水不足(渇水)」をあげた人は27.3%、「将来的な水不足・渇水」への不安も24.9%。水道インフラの今後を「悪くなる」と見る割合も、多くの項目で東名阪を上回った。

◆沖大幹博士による解説 ～Oki's View～

調査結果を、家計支出や観測データ、災害の記憶、地域が抱える課題と照らし合わせながら、水を暮らしの生命線として捉える意識や、安定した維持管理への期待、気候変動・災害への危機意識の変化について、世代や地域の違いも交え、4つのコラムでご考察いただきました。

【この件に関するお問い合わせ先】

特定非営利活動法人 日本水フォーラム（認定NPO法人）

担当：桑原 Email：office-info[at] waterforum.jp（[at]を@に代えて送信してください）

第32回（令和八年度）定点調査《結果の抜粋と掲載ページ》

■ 社会インフラとしての水／東京圏・中京圏・大阪圏

- ◇日本で深刻な水問題、4割超が水道管老朽化問題を深刻視…トピック【1】
「知っていることはない」が3割超 3ページ
- ◇インフラ料金“妥当だと感じている人”が最も多いのは水道料金 3ページ
- ◇インフラ料金値上げを最も許容できるのは「水道料金」…トピック【1】 4ページ
- ◎～Oki's View～① 水は命だと思われているのか？ 4ページ
- ◇安定的な維持が重要だと思うインフラ「水道」「電力」が6割超で双璧をなす…トピック【1】 5ページ
- ◇水道インフラの今後、全項目で「悪くなる」が「良くなる」を上回る
老朽化対策や料金負担は悪化を懸念も、安定供給や安全性には一定の信頼感？ 5ページ
- ◎～Oki's View～② 水道には安定した維持管理を期待 6ページ

■ 水と環境／東京圏・中京圏・大阪圏

- ◇気候変動への危機“意識している人”の割合が15年前から減少…トピック【2】 7ページ
- ◇気候変動の危機項目、より体感しやすいリスクに危機感
各項目の数値は、この15年間で減少傾向 7ページ
- ◎～Oki's View～③ 気候変動への無関心 8ページ
- ◇世界の水問題の認知「水道水をそのまま飲める国はごくわずか」断然トップも数値は減少
「知っていることはない」は増加の一途…トピック【2】 8ページ

■ 水と災害／東京圏・中京圏・大阪圏

- ◇日頃不安や心配に感じていること「特に感じない」がトップに 9ページ
- ◇不安な災害「台風」の数値が激減。「地震」「ゲリラ豪雨」も大きく減少 10ページ
- ◎～Oki's View～④ 安心で幸せな日本の暮らし 10ページ

■ 水道水に関する意識／東京圏・中京圏・大阪圏

- ◇水道水の評価、全体の平均点7.15点
エリア別トップは中京圏の7.28点 11ページ
- ◇水道水への不満“不満がない人”が過半数 11ページ
- ◇水道水の将来への不安、3人に1人以上が「不安なし」も、50代・60代は“不安あり”？ 12ページ

■ 節水の意識と行動／東京圏・中京圏・大阪圏

- ◇節水を意識している人は減少…トピック【2】 13ページ
- ◇節水を行っている人も減少…トピック【2】 13ページ
- ◇日常生活で実践していること「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」が初のトップ陥落
「実践していることはない」が2割超まで増加…トピック【2】 14ページ

■ 水と生活・文化／東京圏・中京圏・大阪圏

- ◇知っている祝日・記念日「水の日」の認知率は横ばい 14ページ

■ 【特別レポート】四国における水にかかわる生活意識

- ◇日本で深刻な水問題、渇水リスクをより深刻視 15ページ
- ◇インフラ料金“高いと感じている人”が東名阪より多い 15ページ
- ◇インフラ料金値上げの許容傾向は東名阪と同様も、数値に若干の差 16ページ
- ◇安定的な維持が重要だと思うインフラ「食料供給」「医療」など上位に独自色も 16ページ
- ◇水道インフラの今後、「悪くなる」の数値の高さは地域が抱える課題への意識も影響？ 17ページ
- ◇約3人に1人が「給水制限や断水」に不安を感じている…トピック【3】 17ページ
- ◇不安な災害、多くの項目で東名阪の数値を上回る
「水不足（渇水）」「津波」など上位に地域特性も…トピック【3】 18ページ
- ◇水道水の評価、四国の平均点は7.26点…トピック【3】 18ページ
- ◇水道水への不満、東名阪と同様「不満なし」多数、不満の傾向は「料金＞味・質」 19ページ
- ◇水道水への不安、4人に1人は「将来的な水不足・渇水」を不安視…トピック【3】 19ページ

■ 調査概要

20ページ

【調査概要】

第32回（令和八年度）「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500人
- ◆調査対象者 : 東京圏(埼玉・千葉・東京・神奈川)、中京圏(岐阜・愛知・三重)、大阪圏(京都・大阪・兵庫)に居住する20代～60代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 2026年6月11日（木）～16日（火）
- ◆回収数（人） :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合 計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	小計
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合 計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

特別調査「四国における水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,300人
- ◆調査対象者 : 四国圏(徳島・香川・愛媛・高知)に居住する20代～60代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 2026年6月11日（木）～16日（火）
- ◆回収数（人） :

	徳島県		香川県		愛媛県		高知県		合 計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	小計
20代	11	12	8	9	14	20	17	9	50	50	100
30代	36	35	40	49	50	48	24	18	150	150	300
40代	38	34	35	44	52	53	25	19	150	150	300
50代	23	29	48	44	48	52	31	25	150	150	300
60代	32	28	41	32	57	64	20	26	150	150	300
合 計	140	138	172	178	221	237	117	97	650	650	1,300
	278		350		458		214				

Oki's View の沖大幹博士プロフィール

沖 大幹（おき たいかん）
 東京大学 大学院工学系研究科 教授
 日本水フォーラム 副会長

1964年東京生まれ。1993年博士（工学、東京大学）、1994年気象予報士。1989年東京大学助手、1995年同講師等を経て2006年より同教授。2016年より21年まで国連大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。専門は水文学（すいもんがく）で、地球規模の水循環と世界の水資源に関する研究。書籍に『水の未来』（岩波新書、2016年）、『水危機 ほんとうの話』（新潮選書、2012年）など。2024年には、水のノーベル賞とも呼ばれる「ストックホルム水大賞」に選ばれ、紫綬褒章も受章。その他生態学琵琶湖賞、日本学士院学術奨励賞、国際水文学賞Doogeメダル（2021年）やヨーロッパ地球科学連合John Daltonメダル（2023年）など表彰多数。

